



2021年 11月1日
第58号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

11月1日号

11月1日は、JR東労組にとって決して忘れてはいけぬ日である。2002年11月1日、当たり前前の労働運動や平和活動をずるJR東労組に対して「平和運動なんて生意気だ」「組織を半分にしてやる」と、公安警察主導の国策捜査で、大弾圧を仕掛けた「えん罪・JR浦和電車区事件」が発生した日である。あれから今日で19年が経過した。この事件では、被害届が出される前から捜査が開始されていたこと、アリバイがある人が犯罪と認定されたこと、裁判長を含めた全裁判官の交代があり、被害者とされる人の証言を聞いていない中で、「被害者証言が信用できる」とするなど、有罪ありきの事件だった。

「推定有罪」というドラマで、警察の密室での取り調べにより、人は精神的に極限まで追い込まれると「やっていないものをやった」と認めてしまふようになる、映し出していた。まさに、344日間の拘留や家族を引き合いに出し、人の弱みに漬け込む取り調べのやり方は、美世志会と同じであった。この密室構造が「刑事裁判有罪率は99.9%」と言われる「推定有罪」を生み出している日本の現状である。取り調べの可視化を実現する事が、えん罪事件を無くす役割を果たしていく。

一方で、この構造は、警察だけのものであろうか。一部企業での利益誘導による不当労働行為等は、管理者との飲み会や面談などの密閉された空間で行われている。人を追い込む同様の構造は、身近に発生している。一人では、こうした犯罪行為を明らかにすることは厳しい。だからこそ、労働組合がチェック機能を果たし、企業犯罪にメスを入れていく必要がある。その為には多くの団結が必要であるから労働組合への結集を呼び掛けていく。(K・O)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。